

News Release

2014年7月29日
株式会社野村総合研究所

「NISA の利用実態調査（第5回）」を実施 ～投資のイメージをポジティブに変える NISA～

株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：嶋本正、以下「NRI」）は、2014年6月下旬に、「NISA（少額投資非課税制度）^{*1}」についての利用実態調査（以下、「本調査」）を実施しました。金融庁が発表した2014年3月末時点のNISA口座の開設数は650万件ですが、本調査に基づく推計を加えると、2014年末までに累計815万件的口座開設の申込みが予測されます。これに、口座あたりの推計投資金額を掛け合わせると、NISA口座を通した投資金額は年内に5.3兆円に達する見込みです。

本調査から得られた主な結果は、以下の通りです。

■ NISA の申込者数は、今年中に 815 万件を見込む

金融庁が2014年3月31日付の値として発表したNISA口座開設数（650万件）、NRIが金融機関からヒアリングした情報、および本調査の結果を基にすると、NISA口座の開設を金融機関に申し込んだ人^{*2}は、6月末時点で全国に約710万人いると推計されます。

また、本調査をもとに今後のNISA口座の申込者数を予測すると、7月から12月までにさらに105万人が申込み、2014年末には累計で815万件^{*3}に達すると推計されます（図1）。NISA口座の開設は、当初は株式や投資信託を保有していた人が先行していましたが、今後は、投資未経験者による口座開設の割合の増加が見込まれ、105万人のうち60万人は投資未経験者によるものと推計されます。

■ NISA 口座における投資金額は、年内に 5.3 兆円に達する見込み

金融機関にNISA口座の申込みを済ませた人（約710万人）の2014年の平均投資額は、調査結果から65万円と推計されます。ここから、申込済の人の投資総額は約4.6兆円となります。また、2014年内に利用を開始する意向のある人（105万人）の2014年の平均投資額は66万円と推計されますので、総投資額は0.7兆円となります。両者を足しあわせると、NISA口座における投資金額は、2014年1年間で5.3兆円に達すると見込まれます。

■ NISA をきっかけに投資に参加する若年層

既に口座を申し込んだ人の5割以上は、60代以上によって占められており、30代以下は17.3%にとどまっています（図2）。しかし、投資経験による区分^{*4}別に見ると、「非投資家層」においては30代以下の比率が35.4%となっており、60代以上の39.1%に迫る比率となっています。NISAをきっかけに、投資を開始してみたいと考えている若年層が多いことが考えられます。

■ 投資のイメージをポジティブに変える NISA

「投資」に対するイメージと「NISA」に対するイメージを聞いたところ、大きなギャップがありました。「投資」のイメージとして最も高かったのは、「リスクが高い」(39.1%)でしたが、「NISA」について「リスクが高い」と回答した人は半分以下の15.9%でした(図3)。また、「投資」に対しては「損をする」(26.8%)、「ギャンブル/賭博」(23.7%)のイメージがあるのに対して、「NISA」ではそれぞれ13.4%、11.3%にとどまりました。

逆に、「投資」について「少額から始められる」イメージは7.3%と低いのに対して、「NISA」は25.3%となっており、敷居が低い制度という認識がもたれています。

■ NISA 口座開設済みの人で、金融機関を変更する可能性は2割以上

NISA 口座を開設した人のうち「違う金融機関に変更したい」人は2.9%、「違う金融機関に変更するかもしれない」人は19.8%で、合わせて22.7%となりました。当初口座を開設した金融機関の業態別に見ると、「一般の銀行」で開設した人で、「変更したい」「変更するかもしれない」と回答した比率がやや高く、27.4%(4.7%+22.7%)でした(図4)。

変更先の金融機関については、当初口座を「一般の銀行」に開設した人は「一般の銀行」を選択した人が多く(58.1%)、「一般の証券会社」に開設した人は他の業態を選択した人が多くなっています(「一般の銀行」に変更したい人が40.5%、「ネット証券」に変更したい人が22.2%など)(図5)。

変更理由は業態ごとに異なっており、「一般の銀行」の口座開設者は、「金融機関の担当者に対する不満がある」(26.1%)、「商品の品揃えがいまいちだから」(24.0%)が多いのに対し、「一般の証券会社」の口座開設者は、「手数料が高いから(他でもっと安いところがあるので)」(35.1%)、「単に他の金融機関のサービスも利用してみたいから」(23.2%)が上位の理由にきています(図6)。

■ ジュニア NISA の利用意向は、口座申込み済みの人で約5割

教育資金などの積み立てを目的に、子供名義で親が口座を開設するジュニア NISA^{※5}の導入の検討が進められています。ジュニア NISA については、NISA 口座を申込み済みの人(かつ、子供や孫がいる人)、およびこれから開設しようとしている人(同)ほど、導入された場合の利用に前向きで、利用意向率はそれぞれ47.9%、48.7%となっています(図7)。

※1 NISA (少額投資非課税制度) :

NISA とは、上場株式や投資信託への投資によって得られる配当(分配)や売却益を非課税にする制度です。NISA を利用するには専用の非課税口座を開設する必要があり、この口座はひとり一口座と決まっています。また、この非課税口座で購入できる上場株式や投資信託は、年間100万円までです。

※2 「申し込んだ人」の定義 :

口座開設までには、申込みから1ヶ月半程時間を要します。「申し込んだ人」「申込済の人」とは、金融機関にNISA 口座開設の手続きを済ませた人を指します(口座開設が済んだ人も含む)。

※3 2014 年末には累計で 815 万件

2014 年 2 月実施調査では、865 万人と推計しました。「非投資家」層の中で、年末までに口座開設をしたいと考えている人の割合が、2 月調査時点よりも減ったため、口座開設の申込み件数も下方修正となりました。

※4 投資経験による区分：

2013 年 12 月末時点で、株式を保有している人を「株式投資家」、株は保有せず株式以外の投資商品（投資信託、債券など。不動産や美術品は除く。）を保有している人を「株式以外投資家」、投資商品を保有していない人を「非投資家」と区分しています。「株式以外投資家」が保有している投資商品は、投資信託が中心です。

※5 ジュニア NISA：

NISA は、日本国内に住む 20 歳以上の人が開設できますが、現在、次世代を担う子や孫の教育資金づくりや資産形成などをサポートする観点から、口座開設の年齢制限を撤廃または引き下げ、子や孫名義で開設した口座に両親や祖父母等が資金を拠出できるようにする「ジュニア NISA」制度の創設に向けた議論が行われています。

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 清水、十河
TEL：03-6270-8100 E-mail：kouhou@nri.co.jp

【アンケートに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 金融 IT ナビゲーション推進部 金子、萩野
E-mail：focus@nri.co.jp

【ご参考】

<調査概要>

調査名：NISA(少額投資非課税制度)の利用実態調査(2014年6月)

実施時期：2014年6月28日(土)～6月29日(日)

調査対象：全国の20代～70代の男女個人7,000人(回収数)

※集計した値を、「NRI 生活者1万人アンケート(金融編)(2013)」と国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」に基づき、全国の人口分布に近い形になるように補正している。そのため、各グラフにはサンプル数は記載していない。

調査方法：インターネット調査

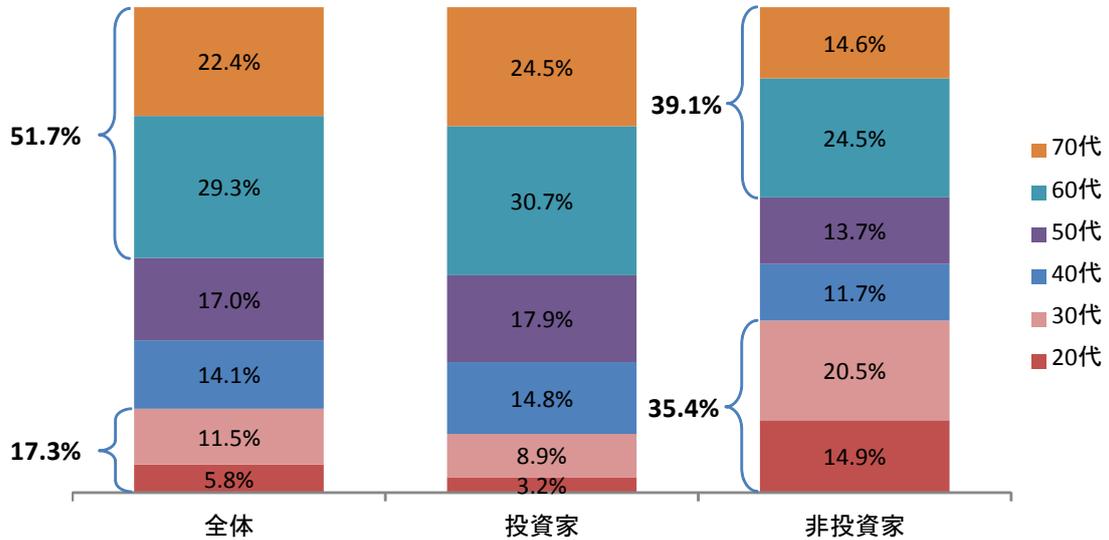
※参考：過去に行った調査の実施時期と回収サンプル数(調査対象の属性や調査方法は上記と同じ)

- ・実施時期：2013年2月16日～2月18日、サンプル数：2,226人
- ・実施時期：2013年7月12日～7月16日、サンプル数：5,000人
- ・実施時期：2013年10月4日～10月6日、サンプル数10,000人
- ・実施時期：2014年2月1日～2月2日、サンプル数5,000人

図1 2014年内のNISA口座開設者数と投資総額の推計

	人数(推計)	一人あたり 2014年の平均投資額 (推計)	2014年の 総投資額(推計)
口座開設 申込み済 の人	約710万人	約65万円	約4.6兆円
口座開設 意向者	約105万人	約66万円	約0.7兆円
合計	約815万人	約65万円	約5.3兆円

図2 NISA 口座開設を申し込んだ人の年代別比率(投資家・非投資家別)



(注) 集計対象：NISA 口座申込み済の人

図3 「投資」と「NISA」のイメージ比較(複数回答)

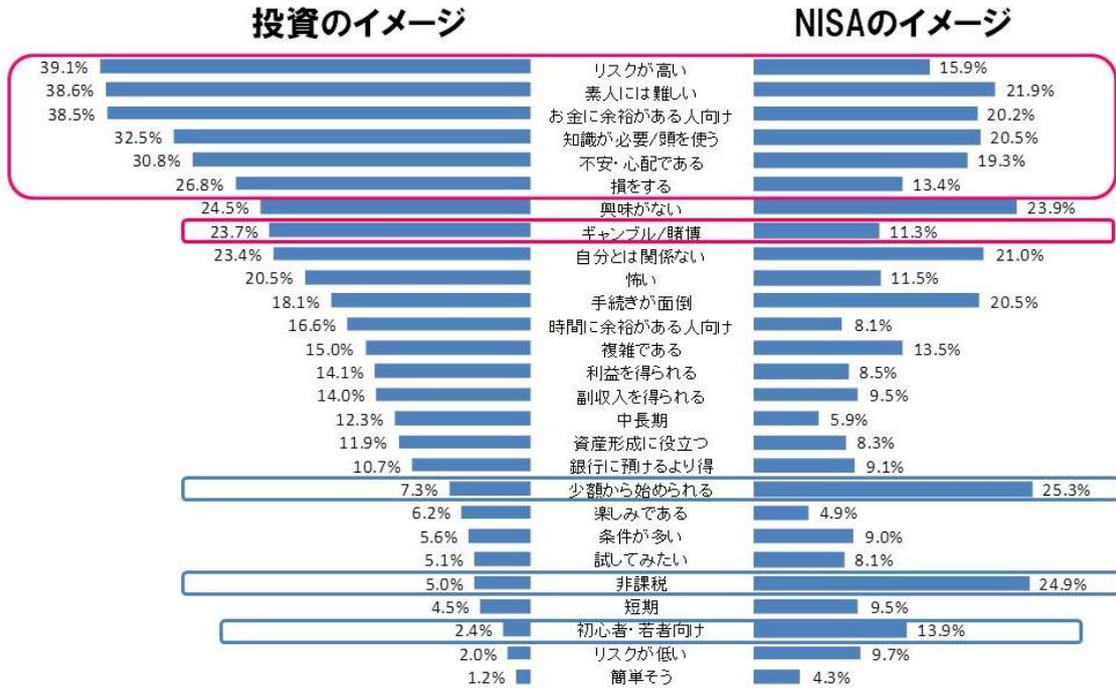
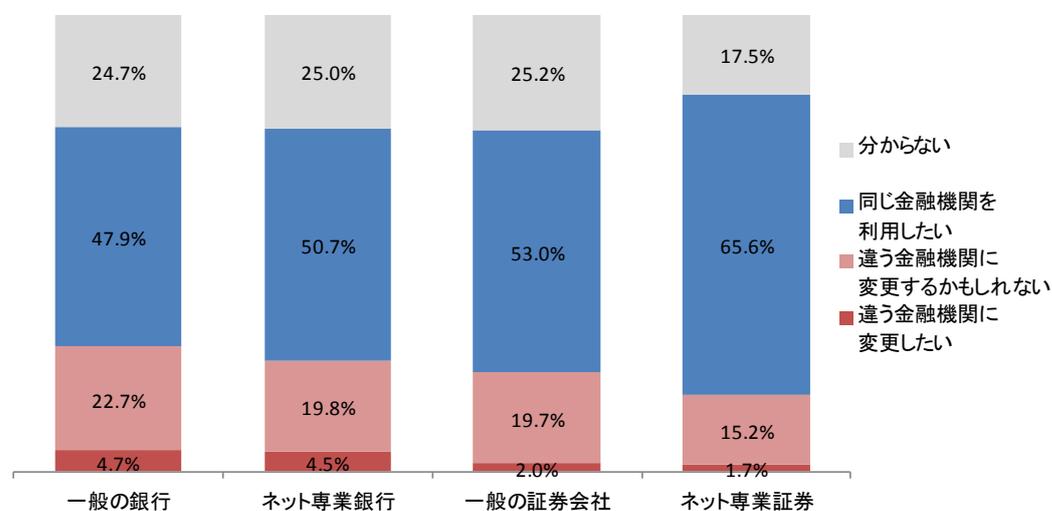


図4 NISA口座を開設した金融機関の変更可能性(当初の開設金融機関別)



(注) 集計対象：NISA口座開設済の人

図5 NISA口座を開設した金融機関の変更先(当初の開設金融機関別)

		NISA口座変更先			
		一般の銀行	ネット專業銀行	一般の証券会社	ネット專業証券
NISA口座開設先	一般の銀行	58.1%	8.2%	16.1%	12.4%
	ネット專業銀行	12.3%	0.0%	0.0%	81.3%
	一般の証券会社	40.5%	4.7%	24.9%	22.2%
	ネット專業証券	16.6%	14.3%	19.3%	42.3%

(注1) 集計対象：NISA口座開設済の人の内、NISA口座開設先金融機関を「変更したい」「変更するかもしれない」と回答した人

(注2) 「ネット專業銀行」は、サンプル数が少ないため参考値

図 6 NISA 口座を開設した金融機関の変更理由(当初の開設金融機関別、複数回答)

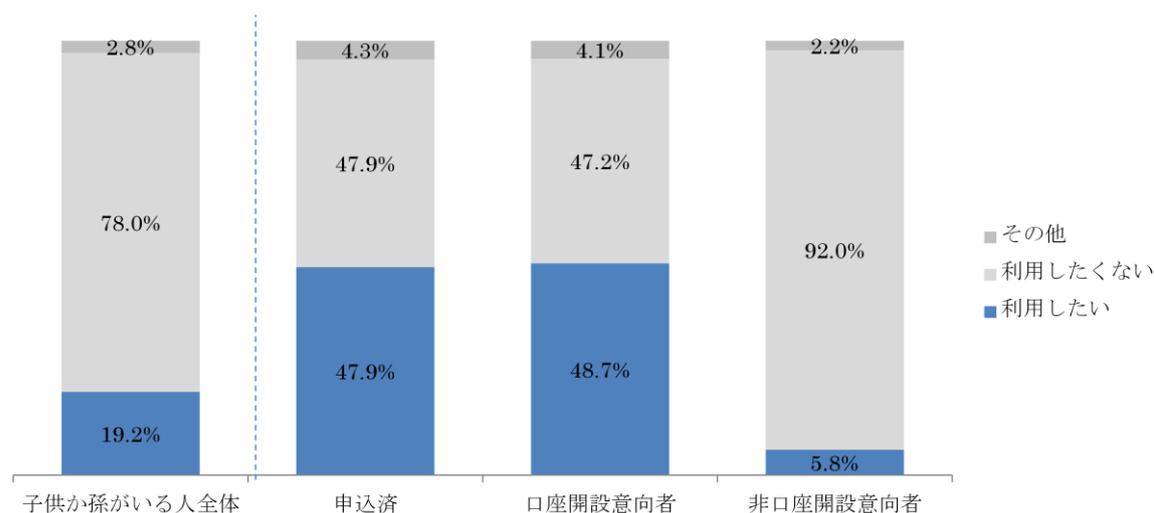
一般の銀行		ネット專業銀行		一般の証券会社		ネット專業証券	
金融機関の担当者に不満がある(※)	26.1%	別の金融機関に口座を開くことでまたキャンペーンを利用したいから	47.0%	手数料が高いから(他でもっと安いところがあるの で)	35.1%	単に他の金融機関のサービスも利用してみたいから	34.1%
商品の品揃えがいまいちだから	24.0%	単に他の金融機関のサービスも利用してみたいから	36.6%	単に他の金融機関のサービスも利用してみたいから	23.2%	別の金融機関に口座を開くことでまたキャンペーンを利用したいから	29.4%
単に他の金融機関のサービスも利用してみたいから	19.5%	手数料が高いから(他でもっと安いところがあるの で)	17.0%	金融機関の担当者に不満がある※	20.9%	手数料が高いから(他でもっと安いところがあるの で)	25.5%
手数料が高いから(他でもっと安いところがあるの で)	16.7%	金融機関の担当者に不満がある※	9.5%	ふだん使い慣れた金融機関に変えたいから	14.1%	ふだん使い慣れた金融機関に変えたいから	9.1%
別の金融機関に口座を開くことでまたキャンペーンを利用したいから	13.2%	インターネットやモバイルでのNISA関連サービス・情報が充実してないから	9.5%	別の金融機関に口座を開くことでまたキャンペーンを利用したいから	11.9%	インターネットやモバイルでの操作性があまり良くないから	7.1%
ふだん使い慣れた金融機関に変えたいから	10.0%	商品の品揃えがいまいちだから	8.2%	商品の品揃えがいまいちだから	9.8%	金融機関の担当者に不満がある※	5.4%
インターネットやモバイルでの操作性があまり良くないから	8.7%	ふだん使い慣れた金融機関に変えたいから	7.9%	家や勤務先から近い金融機関に変えたいから	8.7%	インターネットやモバイルでのNISA関連サービス・情報が充実してないから	5.0%

(注1) 集計対象：NISA 口座開設済の人の内、NISA 口座開設先金融機関を「変更したい」「変更するかもしれない」と回答した人

(注2) 「ネット專業銀行」は、サンプル数が少ないため参考値

(※) 「金融機関の担当者に不満がある」とは、「口座開設後の担当者の対応がよくないから(アフターフォローがない等)」または「別の金融機関の担当者のほうが対応がよいから」を選択した人を指す

図 7 ジュニア NISA の利用意向(NISA 利用状況別)



(注) 集計対象：子供か孫がいる人